

トップコミットメント

Top Commitment

創業の精神を全員で共有し、
持続可能な社会づくりに貢献すること
それがカシオのCSRです

持続可能な社会創造への決意

カシオ計算機は、私と二人の兄（忠雄、俊雄）、そして弟（幸雄）の四兄弟が力を合わせて1957年に創業しました。

長兄の忠雄は20年前の1993年に、また次兄の俊雄は2012年5月に永眠しました。俊雄はさまざまな画期的な発明によって、当社の経営理念「創造 貢献」の基礎を築いた稀代の発明家でした。開発担当の俊雄と営業担当の私は、時に会議の席で激しくぶつかり合うこともありました。私にとっては強い絆で結ばれた頼りになる兄貴でした。

四兄弟の半分を欠いた今ですが、我々の創業の精神はまったく変わることなくカシオに息づいています。それは、誰にとっても必要でありながらまだ世の中にないもの（普遍性のある必要）を見出し、開発し（「0→1」を生み出す）、それによって社会の発展に貢献することそのものです。

一方で近年、地球規模での「持続可能性」が問われています。急激な人口爆発がもたらす深刻な水・食料不足の問題や自然破壊の問題。また、人々の暮らしを豊かにしてきた経済活動は、その半面で資源の枯渇、地球温暖化、生物多様性の喪失、極端な貧富の差など、地球環境や社会生活に大きなひずみをもたらしました。このまま便益だけを求める経済活動を続けていけば、私たちの子どもたちや、孫たちの将来世代から持続可能な未来を奪うことになりかねません。私たちには、このような危機的な状況に真摯に向き合い、必要な対策を実行することで将来世代に持続可能な社会を引き継ぐ責任があります。

カシオは今後も「0→1」を生み出すDNAを継承し、この使命を果たしてまいります。



カシオが取り組むべきCSR課題とは

カシオグループは世界140ヵ国以上の国々と取引をしているグローバル企業として、世界共通の原則を遵守していくことが重要と考え、「国連グローバル・コンパクト」を支持し、CSR経営に取り組んでいます。また、2010年11月に発行されたCSRの国際ガイダンス規格「ISO26000」を手引きとして、国内外の全グループ企業を対象にCSR課題の棚卸しを行いました。その結果を踏まえ、2013年度は「人権の尊重」を重点テーマとして取り上げ、全グループ企業で人権問題への感度を高める取り組みを進めています。

さらに、女性や高齢者、障害者、外国人の雇用や活躍促進といったダイバーシティ推進のため、人事制度の改革などに取り組み、グループの活性化を図ります。従業員一人ひとりの成長・活躍が、必ずやグループにさらなる成長をもたらしてくれるものと確信しております。また、よき企業市民として事業を通じて社会課題の解決に貢献することが重要と考えており、カシオらしい支援の充実に努めています。カシオの商品には電卓、電子辞書、電子楽器、デジタルカメラなど、学校や教育の現場で役立っている商品が多いため、教育分野を社会貢献の重点対象として設定しています。

国内では東日本大震災の震災孤児や被災児童への教育支援の継続、独自に開発した出前授業（命の授業）の拡充に努めています。また、海外においては、各国の教育事情に合わせた商品提案を行うなど、課題解決を通じて教育の質的向上に貢献するとともに、新興国など初等教育の普及に問題を抱える国々への支援にも取り組み始めています。カシオは今後も、社会貢献の軸足として、次世代育成などの教育分野への支援を継続してまいります。

また、カシオは、2050年を見据えた長期的な環境経営方針である「カシオ環境ビジョン 2050」と中期的な行動指針である「カシオ環境宣言 2020」を基に、環境経営を一層強化し、環境先進企業を目指します。

本レポートでは、2012年度における主な取り組みをご紹介します。今後もステークホルダーの皆様と対話を続けながら、CSRを進化させていく所存ですので、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

代表取締役社長

梶尾 和雄

Kashio Kazuo